

慢性痛
急性痛

香曾我部義則先生の今月のカルテ

vol.109

ペインクリニックの現場から

梶木病院麻酔科・ペインクリニック科の香曾我部義則先生と藤井洋泉先生が、痛みの治療や緩和についての情報を届けてくれる「ペインクリニックの現場から」。今号では、坐(ざ)骨(こつ)神経痛の治療について紹介します。



■プロフィール こうそがべ・よしのり
昭和54年に岡山大学医学部卒業後、同大学麻酔科・蘇生科講師、岡山労災病院麻酔科第一部長に。平成16年から現職。日本麻酔学会指導医。日本ペインクリニック学会認定医。現在日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、国際疼痛学会などに所属

坐骨神経痛は疾患名(病名)ではなく、坐骨神経に由来する痛みの総称なので、まず原因の特定(診断名を付ける)が大切です。治療は、ヘルニアや狭窄(きょうさく)症など、脊椎(せきつい)疾患(診断名を付ける)が大切

急性痛の多くは局所の炎症による痛みなので、炎症を鎮める非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)が鎮痛薬の第一選択となりますが、副作用として胃腸障害、腎臓障害、循環器障害があり、長期使用は避けた方がいいでしょう。筋肉の緊張を和らげる筋弛緩(しかん)薬、血流を改善させる方法では硬膜外ブロックが用いられます。脊髄の周囲を囲っている硬膜の外側に局所麻酔薬、あるいはステロイドを注入する方法で、仙骨硬膜外ブロックと腰部硬膜外ブロックがあります。基本的に一回の処置で治る方法ではないので何回か行う必要があります。

坐骨神経痛の治療は、薬物療法、神経ブロック療法、運動療法が基本
普段から正しい姿勢、肥満解消、ストレッチを心掛けましょう

坐骨神経痛は疾患名(病名)ではなく、坐骨神経に由来する痛みの総称なので、まず原因の特定(診断名を付ける)が大切です。治療は、ヘルニアや狭窄(きょうさく)症など、脊椎(せきつい)疾患(診断名を付ける)が大切

坐骨神経痛は疾患名(病名)ではなく、坐骨神経に由来する痛みの総称なので、まず原因の特定(診断名を付ける)が大切です。治療は、ヘルニアや狭窄(きょうさく)症など、脊椎(せきつい)疾患(診断名を付ける)が大切

坐骨神経痛は疾患名(病名)ではなく、坐骨神経に由来する痛みの総称なので、まず原因の特定(診断名を付ける)が大切です。治療は、ヘルニアや狭窄(きょうさく)症など、脊椎(せきつい)疾患(診断名を付ける)が大切

お答えは、梶木病院(北区西花尻)の香曾我部先生です。☎086(29)330054